

大学生の学習アプリの利用実態と学習経験および学習観との関係

1532158 宮野永史名

指導教員：山崎治 准教授

1. はじめに

2010年以降、若い世代(30代以下)でモバイルデバイスが急激に普及してきており、この普及は学習方法にも大きく影響を与えていると考えられる。古川(2013)は大学生を対象としたアンケート調査を実施し、隙間時間を利用した学習ができることから、約8割もの大学生がモバイル端末を利用した学習経験があることを明らかにしている。このような学習方法を実現するために利用されているものが「学習アプリ」と称されるモバイルアプリケーションである。「学習アプリ」の利用は、新たな「学習方法」のひとつとして考えられる。学習に対する考え方として「学習方法」「学習経験」「学習観」が深く関係づけられている(竹口2018)。特に、学習観の形成について、学習経験過程との結びつきを分析することが重要視されている(秋田ら2014)。

そこで本研究では、大学生を対象として学習アプリの時期別に利用についての実態を調べるとともに、現在の学習観との関係に着目する。これにより、学習アプリの有効性やより適切かつ効果的な学習アプリの活用方法について提案することが可能になると期待される。

2. 目的

大学生の学習アプリの利用実態と学習観や学習経験の関係について調査し、大学生の学習スタイルにあった学習アプリについて考察することを目的とする。そこで、学習アプリの利用状況と学習観についての質問項目で調査を行い、二つの関連について考察する。

3. 学習アプリの利用状況と学習観の調査

3.1 方法

調査期間：2018年11月14日～12月5日

調査対象者：本大学本学部本学科2・3年生 133名

調査内容：学習アプリの利用状況と学習観の調査

利用した質問紙：Googleが提供するGoogleフォームを用いて、Webアンケートの形式で調査を行った。質問項目として、「学習アプリの利用実態」と「学習観」に関する項目を用意した。

構成概念：学習アプリの利用実態に関する質問では、「利用の有無」「利用目的」「学習内容」「利用した機能」について、大学・高校・中学の各年代に分けた設問を計25項目用意した。また、学習観に関する質問では、高山(2003)の用いた学習観尺度を用いた。学習観尺度は「記憶」、「主体的探究」、「生涯学習」、「自然な習得」、「知識の増大」、「成長・向上」、「応用」、「体得・反復」、「強制・義務」の9因子から構成され、各因子の質問項目から4項目ずつ選定し、合計36項目とした。

手続き：調査対象者に、説明用資料を配布し、調査の目的および概要について説明した。説明用資料にはURLとQRコードを記載し、調査の参加に同意ができる場合、Googleフォームにアクセスし、期間内に

回答を送信するよう依頼した。調査用のサイトの閲覧および回答は、パソコンや携帯端末で行うことができ、各調査対象者が任意の環境・時間に回答を行うものとした。

3.2 結果

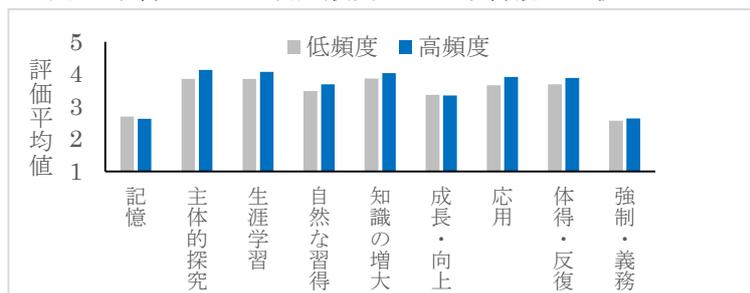
回答に不備が無い126名を分析対象者とした。

学習アプリの利用の有無として、6割強の対象者は利用経験があり、特に高校時代から始める人が多いことが分かった。しかし、高校時代に利用していても、大学では利用しなくなった人も多かった。また、利用されない理由として、大学での講義内容と学習アプリの学習内容が合うものが少ないことがあげられた。

学習アプリの利用頻度と学習観ごとの評価平均値の差をそれぞれ独立サンプルt検定により検定した結果、主体的探究と応用の学習観に有意差が認められた(主体的探究： $t(112.97)=-2.31, p=.02, r=.21$ / 応用： $t(107.60)=-2.09, p=.04, r=.20$)。

図1に「学習アプリの利用頻度と学習観ごとの評価平均値の比較」に対する図を示す。

図1: 学習アプリの利用頻度による学習観の比較



有意差が認められた学習観の「主体的探究」とは自主的な遂行、興味を持つことの自発的な探求などで、「応用」とは知識や技能の獲得が、社会で活躍する上で役立つという応用を意識した捉え方などである。このことから学習方法が学習アプリのときでも学習観に影響していると言える。また、学習アプリは、自発的な学習や得た知識を社会で役立たせるといった実用的な側面を意識することにつながるということが分かった。

4. まとめ

学習アプリは学習観に影響を及ぼしており、今後のICTとして有効な学習だと考える。また、いつでもどこでも学習できるという利点があり、学習の補助として利用するのに適していると考えられる。今後の展望として、これらの学習観の変化による学習効果への影響についての研究が望まれる。

参考文献

高山草二(2003). 学習観とその規定要因および学習方略との関係 島根大学教育学部紀要(人文・社会科学)第37巻 pp.19~26.